

東京 2025 3.8 Sat - 14 Fri
シアターセブン

ドキュメンタリー

映画祭 Tokyo Documentary
Film Festival
in Osaka

in OSAKA

2023/2024の
ベストセレクション!

みえない壁を越え、
新しい世界と
出会う!



芸術文化振興基金助成事業

ごあいさつ 「東京ドキュメンタリー映画祭」の大阪上映が復活します!

2023年・2024年の12月に東京で行われた「東京ドキュメンタリー映画祭」から、受賞作品を中心に、話題を呼んだ作品をベストセレクションとして上映。劇場での上映機会が少ない作品や、当映画祭の特徴のひとつである「人類学・民俗映像部門」の作品も多数セレクトしました。忘れてはならない社会的テーマや、世界各地の貴重な習俗の記録に劇場で触れられる貴重な機会。多彩なドキュメンタリー作品が、みなさまの知的好奇心を刺激し、さらなる世界への関心が深まる機会となることを願っています。

佐藤寛朗 (プログラマー)

長編部門コンペティション

『わたしを演じる私たち』

監督=飯田基晴/2024年/89分/日本 ★2024長編部門準グランプリ



3/ 8 日 10:00

2021年に横浜で始まった、精神疾患を持つ人たちが実体験を盛り込んだ演劇に挑む「OUTBACKアクターズスクール」にカメラが密着。メンバーの個性は、そのまま劇中のキャラクターとなり、それぞれの人生が物語に紡がれる。おのおのが抱える困難が、舞台というフィクショナルな空間に反映され、むき出しのリアルな生が、演技を通して現れる。

『香港時代革命』

監督=佐藤充則、平野愛/2022年/17分/日本 ★2023長編部門グランプリ



3/ 8 日 12:00

3/12 水 17:10

2019年、香港では自由と民主を求める大規模な抗議デモが勃発。警察の暴力に抵抗するデモ隊を、市民や学生の立場で支持し、撮影する人々がいた。しかし破壊行為への反感から政府支持の市民も現れ、デモは行き詰まる。分断の進む中、もがきながら記録を続けるトラック運転手や学生記者に密着し、激動の香港に生きる人々の姿を見つける。

『OKAは手ぶらでやってくる』

監督=牧田敬祐/2024年/90分/日本 ★2024長編部門グランプリ



3/ 9 日 10:00

3/14 金 17:30

長年カンボジアで学校建設などの支援を続け、2022年に71歳で世を去った栗本英世の人生を、生前の映像や関係者による証言でひもとく。いつも手ぶらで一文無したが、地雷を掘り出し、人身売買を無くそうと奔走し、草葺きの寺子屋を建ててまわった栗本の、OKA (カンボジア語でチャンスの意味) と呼ばれ親しまれた人柄が描かれる。

『俳優病』

監督=藤本純矢/2024年/87分/日本



3/ 9 日 12:00

『DIE EATER』シリーズの藤本監督の最新作は、30年以上のキャリアを持つ俳優・谷本進のひとり芝居に密着。近年は体調を崩し、精神的にも不安定となり舞台から消えていた彼は、なぜ7年ぶりに俳優への本格復帰を志したのか。虚実入り混じる稽古の様子を近い距離で捉えたカメラが、谷本の鬼気迫る表情の奥にあるものをえぐり出す。

『ロマンチック金銭感覚』

監督=緑茶麻悠、佐伯龍蔵/2022年/120分/日本
★2023長編部門準グランプリ



3/ 9 日 16:15

3/11 火 17:10

監督二人が出演し、自らの生活状況を交えながら、「お金」の価値やそれに伴う人々のつながりへの考察を深めてゆく、フィクション混じりのユニークなドキュメンタリー。緑豊かな京都の里山で、作家ミハエル・エンデの提唱したエイジングマネー (自然に還るお金) を実践する人々の刺激的な言葉が、“価値の常識”に揺さぶりをかけてゆく。

『見えるものと見えないもの -画家 大崎真理子のみた風景-』

監督=筒井勝彦/2023年/69分/日本



3/10 月 13:00

2018年に23歳で夭折した画家・大崎真理子。大学在学中に京都市長賞を受賞し、今後の活躍が期待されるなか、不慮の事故でこの世を去った。寡作ながら、確かなもの求めて手を動かし続けた彼女の足跡と創作姿勢を、生前の映像や関係者のインタビューを交えて、ていねいに紐解くことで、一人の表現者の生きた証がスクリーン上に蘇る。

『君は君でいい』

監督 = 大場丈夫 / 2024年 / 80分 / 日本



3/11 火 11:00

茨城県にある私塾「轍(わだち)学舎」。元教員の柳田尚久塾長のもとには、不登校の中学生たちが彼を慕ってやってくる。中学校には行けないが、この先どう進学するのか、将来何になりたいか…。理由はさまざま、尽きない彼らの悩みに粘り強く対峙する塾長の奮闘と、子どもたちとの心の交流を、ダイレクトシネマ的な手法で描く。

『いっしょ家』

監督 = 宮下浩平 / 2023年 / 99分 / 日本 ★2023長編部門観客賞



3/14 金 11:00

福井県越前市にあるデイサービス「いっしょ家」では、発達に特性のある子どもやお年寄り、障がいのある人などが集い、スタッフと共にひとつ屋根の下で過ごしている。それぞれが思い思いの時を過ごす「いっしょ家」の日常を観察的にとらえながら、この“共生の空間”が入所者に果たす意味や、その成り立ちの秘密にも迫っていく。

『北鶴島』

監督 = ジョン・ウィリアムズ、岩崎祐 / 2024年 / 86分 / 日本

★2024長編部門観客賞



3/12 水 13:00

佐渡島の北端に位置する北鶴島。その風土と生きる人々に惚れ込んだイギリス出身の監督は、10年にわたって同地で撮影を続ける。中世から続く神事などの風習や山海の恵み、島民の気高さに触れる中で、監督は故郷の思い出や海洋学者であった父の最後に思いを馳せる。さまざまな歴史や記憶が重なり、やがて鮮やかな人間賛歌へと結実していく。

『今のほうがその続き』

監督 = 今井いおり / 2024年 / 92分 / 日本



3/14 金 13:10

大阪・吹田市にある元学生寮で、30年にわたり子どもたちに英会話やミュージカルを教えてきた女性。だが建物は老朽化し、趣味で買った機織り機が埋もれていた。そこにかつての教え子たちが集い、まちづくりの拠点として再生を試みる。やがて、現れたような青年が機織りに興味を持ち……。人と人、人と街、紡がれる思いの物語。

長編部門コンペティション

長編+短編部門コンペティション

沖縄 交錯する土地



3/ 8 土 14:30

3/13 木 17:25

『あなたが私のパパですか?』

監督 = 末田あきの / 2023年 / 32分 / 日本 ★2024短編部門グランプリ

『みえないことば 沖縄』

監督 = シュー・イーニン (徐一宁) / 2024年 / 70分 / 日本

独自の文化を持ちながら、複雑な歴史を経て様々な人間が交錯する沖縄が舞台の2本。『あなたが私のパパですか?』は、三十代で初めて米軍属だった父と会う監督の心の揺れを描く。『みえないことば』は、夫の出身地・沖縄に移住したポーランド人女性の奮闘や苦勞と並走しつつ、島々で異なるウチナーグチの深い世界に分け入ってゆく。

アイデンティティの揺らぎ



3/11 火 15:10

『娘より、父へ』

監督 = 龍村仁美 / 2023年 / 17分 / 日本 ★2023短編部門観客賞

『彼女の生き方 - Living and Being Alive』

監督 = 田中千里 / 2023年 / 70分 / 日本

『娘より、父へ』は、著名な映像作家の父を亡くした19歳の監督が、父への思いと自分の決意を多彩なモノローグと映像で表現。『彼女の生き方 - Living and Being Alive』は、大学4年生の従妹が、和歌山の梅農家をはじめ、日本各地を転々としながら“自分”を発見する過程に伴走。ふたりの女性監督が、令和を生きる若者の“自分探し”を鮮やかに描く。

短編部門コンペティション

カメラがたどる記憶



3/ 9 日 14:00

『カミングアウトジャーニー』

監督=山後勝英/2022年/52分/日本

『肩を寄せあって』

監督=横田丈実/2022年/52分/日本 ★2023短編部門準グランプリ

かつて世話になった人々に、自らの「これまで」と「本当の私」をカミングアウトする男性の旅に密着した『カミングアウトジャーニー』。奈良県斑鳩で20年間、共に暮らした人々との交流を、僧侶でもある監督がみつめた『肩を寄せあって』。変わるものも、変わらぬものもある時の流れと、そこに在ったかつての「自分」をみつめた2本。

“先の戦争”の現在地

3/10 日 11:00



『23通のありふれたラブレター』

監督=仲村淳/2023年/13分/日本 ★2024短編部門準グランプリ

『志郎康さんの印象』

監督=小沢和史/2024年/18分/日本

『沖縄 戦没者遺骨収容 旧海軍司令部壕』

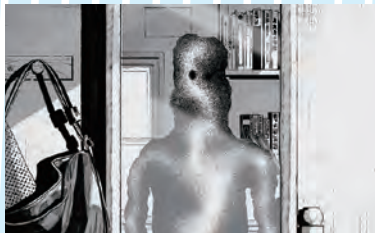
監督=宮ゆふき/2024年/18分/日本

『あしたよなあー不時着した特攻隊員ー』

監督=田畑美穂/2023年/38分/日本

戦後79年、当事者が次々と亡くなるなか、太平洋戦争は今どう記録されるのか。戦死した祖父が祖母に寄せた強烈なラブレター。一昨年逝去した詩人・鈴木志郎康さんが故郷・亀戸で遺した言葉。物語らぬ遺骨の収集に集う人々から浮かび上がる沖縄戦。鹿児島島の難島、黒島に伝わる特攻兵の記憶を継承する若者たち。四者四様の記録。

当世大学事情



3/11 火 12:50

『私は、私と、私が、私を、』

監督=伊藤里菜/2024年/17分/日本 ★第79回毎日映画コンクール アニメーション部門 大藤信郎賞

『インボリューションと学歴社会』

監督=戸国豪/2022-24年/39分/日本、中国

『さよなら大学〜コロナ禍の学生たち〜』

監督=斉藤潤一/2024年/60分/日本

“フルコロナ世代”の学生たちの4年間を総括する『さよなら大学』。学歴を得るために日本留学を決めた、中国男性の思いに肉薄する『インボリューションと学歴社会』。自身の整形体験をもとに、日常で感じる違和感をアニメーションとして象徴的に表現する『私は、私と、私が、私を、』。世界の揺れ動きの中で若者たちは何を思うのか。

特別上映

『リリィ 私は泣いています』

監督=高間賢治/2023年/108分/日本



3/14 金 15:15

2016年に64歳で惜しくも亡くなった女優・シンガーソングライターのリリィ。彼女が晩年に精力を注いでいた『リリィ + 洋士』のライブを観て惚れ込んだカメラマンの高間賢治が、自費でその活動を撮影し続けた。今なお輝きを放つ歌声を記録したライブ映像に、親友・研ナオコら関係者の証言を加えた高間の初監督作品を、特別に上映。

日本での出会い



3/12 水 15:00

『能登の花』

監督=トマゾ・バルベッタ、トマゾ・ネグリ/2024年/30分/日本

『ジャスト・ア・ライド』

監督=マッティ キヌヌネン、イサッキ ケンニラ/2014-24年/63分/フィンランド、日本

能登の自然に魅了されたイタリア人写真家が、震災を機に現地を再訪、ボランティアで料理を振る舞う『能登の花』。福島で日本人サーferと出会い、冒険を共にするフィンランド人スノーボーダーの魂の遍歴を、雄大な自然を交えて描く『ジャスト・ア・ライド』。日本での出会いを機に変化する海外監督の心もようをとらえた2本。

『家族の問題 K-Family Affairs』

監督=ナム・アルム/2023年/90分/韓国



3/ 8 土 16:45

政府高官の父親と、社会活動家の母親を持つ監督は、自らもバク・クネ弾劾やMe too運動など激動に採まれた青春を送るうち、両親にカメラを向け始める。かつて民主化運動の旗手だった「386世代」の両親の本音はどこにあるのか？ 娘の問いに向き合う家族愛を描きながら、個人史と韓国現代史が重なる貴重なセルフドキュメンタリー。

人類学・民俗部門コンペティション

民俗芸能：伝承へのおもい



3/10 月 14:40

『若獅子とハレの日』

監督=玉置 裕哉/2024年/23分/日本

『音、鳴りやまぬ。』

監督=長岡 夢/2022年/90分/日本 ★2024人類学・民俗映像部門 奨励賞

コロナ禍で大きな影響を受けた民俗芸能の担い手の思いを描く2作品。『若獅子とハレの日』は、大阪・河内長野に伝わる「日野獅子舞」の4年の中断後の復活取材材。『音、鳴りやまぬ。』は、東京・池袋周辺で行われる「まとい」「お囃子」「獅子舞」に携わる人たちが、パンデミック下で思うように活動できない姿を追う。

『マーゴット』

監督=カタリーナ・アウヴェス・コスタ/2022年/72分/ポルトガル
★2023人類学・民俗映像部門 宮本肇太郎賞(グランプリ)



3/10 月 17:05

ポルトガルの民族音楽学者マーゴット・ディアスがモーザンビークで行ったフィールドワークの資料を元に、監督が現地を再訪する。彼女の経験を追想し、残した資料により再構成される本作により、過去・現在・未来を繋ぐ映像人類学の価値や意義を示される。監督・マーゴット・モザンビークの人々、視線や思いが重なり合う一作。

アフリカ/東京



3/12 水 11:00

『グナワとの遭遇』

監督=栗村 実/2023年/40分/日本、モロッコ ★2024人類学・民俗映像部門 観客賞

『つながりを生きる 東京のエチオピア移民』

監督=川瀬 慈/2024年/48分/日本

北アフリカ・モロッコの、精霊と繋がりがトランス状態を作り出す伝統的な音楽儀式「グナワ」に日本人が参加し、憑依の様子を記録した「グナワとの遭遇」。東京・葛飾区や墨田区のエチオピア人コミュニティ取材し、エチオピア人同士や地域住民との交流を描いた「つながりを生きる」。日本とアフリカの距離が縮まる2作品。

インド悲喜こもごも



3/13 木 11:00

『タイガー・ダンス』

監督=ブラヴィーン・ド・シェッティ、ニテシュ・アンチャン/2023年/36分/インド

『インディアン・ラブストーリー』

監督=ティベス・カレ、フローテ・ストラウス/2023年/60分/ネパール、ノルウェー、日本

パワーあふれるインド社会の機微を描く2作品。『タイガー・ダンス』は、バンガロール近郊で行われる華やかで躍動感あふれるタイガー・ダンスのパフォーマンスを紹介する。『インディアン・ラブストーリー』は、ある青年が結婚に至るまでに経験した困難を通じて、規範やカースト制の強固さをうかがわせる。

ロシア北方民族の今



3/13 木 13:10

『アンバ』

監督=ヴァレリー・パフロビッチ・ウスコフ/2023年/18分/ロシア

『ターニャの夏と冬』

監督=アレクサンドル・アウイロフ/2023年/81分/ロシア

★2024人類学・民俗映像部門 宮本肇太郎賞(グランプリ)

ロシア少数民族の現状と、自然と共に生きる生活を知る2本。ナナイ族の老漁師がライフストーリーや大規模漁業により生活の糧である魚が減っている現状を語る「アンバ」。「ターニャの夏と冬」では人里離れた自然の中で暮らすハンティ族のターニャが夏と冬にのみ寄宿舎から帰ってくる子供たちに様々な猫や自然の知恵を教える。

『シカ・スバル』

監督=ディオゴ・ベソア・デ・アンドラーデ/2024年/94分/ポルトガル
★2024人類学・民俗映像部門 準グランプリ



3/13 木 15:20

2002年に独立した東ティモールの伝統文化である「闘鶏」にスポットを当てる。人々にとって交流の場である闘鶏は、娯楽にも生活基盤になり得る重要な存在だが、パンデミックへの対応はじめ、近代国家への移行に際しては課題も多い。闘鶏を通じ彼らの社会や倫理観を考察する。タイトルの「シカ・シバル」は現地語で「切り札」の意。

Time Table 3.8Sat — 14Fri

3 / 8 土	10:00 長編 『わたしを演じる私たち』 (89分)	12:00 長編 『香港時代革命』 (117分)	14:30 短編+長編 沖縄 交錯する土地 (102分)	16:45 特別 『家族の問題 K-Family Affairs』 (90分)
3 / 9 日	10:00 長編 『OKAは手ぶらで やってくる』 (90分)	12:00 長編 『俳優病』 (87分)	14:00 短編 カメラがたどる記憶 (104分)	16:15 長編 『ロマンチック金銭感覚』 (120分)
3 / 10 月	11:00 長編 “先の戦争”の現在地 (87分)	13:00 長編 『見えるものと 見えないもの -画家 大崎真理子のみた風景-』 (69分)	14:40 人類学 民俗芸能: 伝承へのおもい (113分)	17:05 人類学 『マーゴット』 (72分)
3 / 11 火	11:00 長編 『君は君でいい』 (80分)	12:50 短編 当世大学事情 (106分)	15:10 短編+長編 アイデンティティの 揺らぎ (87分)	17:10 長編 『ロマンチック金銭感覚』 (120分)
3 / 12 水	11:00 人類学 アフリカ/東京 (88分)	13:00 長編 『北鷲島』 (86分)	15:00 短編+長編 日本での出会い (93分)	17:10 長編 『香港時代革命』 (117分)
3 / 13 木	11:00 人類学 インド悲喜こもごも (96分)	13:10 人類学 ロシア北方民族の今 (99分)	15:20 人類学 『シカ・スバル』 (94分)	17:25 短編+長編 沖縄 交錯する土地 (102分)
3 / 14 金	11:00 長編 『いっしょ家』 (99分)	13:10 長編 『今のほうがその続き』 (92分)	15:15 特別 『リリイ 私は泣いています』 (104分)	17:30 長編 『OKAは手ぶらで やってくる』 (90分)

監督による舞台あいさつを予定!
詳細は公式サイトやSNSでご確認ください

tdff-neoneo.com
X (旧ツイッター) @TDFF_neoneo
f tdff.neoneo

特別鑑賞券発売中! 3回券:3,600円

劇場窓口および映画祭事務局で販売(映画祭期間中も販売しますが、売り切れ次第販売を終了します)
※Web予約では使用できません。窓口にて指定席券とお引き換えください

【東京ドキュメンタリー映画祭事務局】

主催:neoneo編集室 | 後援:一般財団法人 宮本記念財団

協賛:エトノシネマ、芸術文化振興基金助成事業 | 協力:カナザワ映画祭

問合せ先メール:tdff.neoneo@gmail.com (東京ドキュメンタリー映画祭事務局)

チケットは上映日の1週間前より劇場窓口&WEBにて販売致します

一般:1,600円 | シニア:1,300円 | 会員:1,100円 (同伴割引:1,300円 ※1名迄)

学生:1,000円 | 障がい者割:1,000円 (同伴割引:1,000円 ※2名迄)

子ども:700円 (3歳以上小学生以下) | 他館提携割引:1,400円

淀川区民割引:1,300円 (淀川区にお住まいの方)

U30ペア割引:3,000円 (おふたりとも30歳以下の場合) | 月曜・金曜ペア割:2,600円

水曜サービスデー・ファーストデー(1日):1,300円

大阪市淀川区十三本町1丁目 サンポードシティ5F

Theater
Seven

06(4862)7733

www.theater-seven.com

